

鳥獣被害対策の取り組みについて

1 平成28年度の取り組み状況

(1) 被害集落の半減に向けた防除対策の強化

【成果目標】被害集落の半減（3年間で500集落）による農林業被害の軽減

◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

被害をなくした集落での成功事例事例を県内に普及・拡大するため、鳥獣被害対策専門員を中心に被害集落への総合的な支援を実施し、被害額の大幅な減少を目指す。

- ・野生鳥獣に強い高知県づくり推進チーム会の開催による関係者の連携と支援策等の検討
(4/25 東部嶺北ブロック・4/27 西部ブロック・4/28 中央ブロック)
- ・鳥獣被害対策専門員会による支援の進捗管理（6回）
- ・鳥獣被害対策専門員の拡充による支援の強化
(JA 土佐わいばくに1名を増員：7月)
- ・集落ぐるみで設置する防護柵への支援
(鳥獣被害防止総合対策交付金による整備事業：15市町村協議会に交付)
- ・野生鳥獣に強い高知県づくりブロック学習会の開催による事業の普及啓発（10ヵ所）
- ・野生鳥獣に強い高知県づくりでの合意形成集落：115集落（1月末時点）／支援集落数183集落

(2) シカ捕獲目標3万頭達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

◆新規狩猟者の確保と技術向上

捕獲の担い手である狩猟者の確保と捕獲技術の向上によるシカの捕獲数の上積みを図る。

- ・新規狩猟者の確保
(狩猟フォーラムの開催による若者や女性へ普及啓発：フォーラム参加者189名)
(狩猟免許試験合格者数：333名（1月末時点）)
- ・わな捕獲技術講習会による捕獲技術の向上：（5回：97名）

◆捕獲困難地域での捕獲

山岳地など捕獲の困難な地域において、シカの捕獲に取り組む。

- ・官民協働での三嶺シカ捕獲事業を実施
(実施本部会議（7/28、2/15〔予定〕）、捕獲実施（10/2）10頭捕獲)
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業を活用した山岳地等でのシカ捕獲を実施
(猟友会役員等との意見交換(6/21、6/30、7/5、7/7)、
(実施計画作成等検討会(9/28、11/16)、捕獲実施(1月～2月（四万十町、馬路村）)

◆シカ肉等の有効活用の推進

捕獲したシカ等を地域の資源として有効活用するため、消費拡大等に取り組む。

- ・よさこいジビエ研究会の開催による関係者の連携や情報共有（9/9、3月〔予定〕）
- ・ジビエ料理教室の開催による食材としての利用促進（12/5）：参加者約80名
- ・よさこいジビエフェアによる消費拡大の取り組み（1月15日～3月13日）：参加34店舗

2 課題

(1) 被害集落の半減に向けた防除対策の強化

支援集落の拡大と合意形成率の向上、防護柵設置費の確保

(2) シカ捕獲目標3万頭達成に向けた捕獲対策の強化

新規狩猟者のさらなる確保対策と捕獲技術の向上による捕獲頭数の上積み

3 平成29年度の取り組み方針・進め方

(1) 被害集落の半減に向けた防除対策の強化

【成果目標】被害集落の半減（3年間で500集落）による農林業被害の軽減

◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

- ・【拡充】野生鳥獣に強い高知県づくりの強化（支援の加速化と支援集落の拡大）
（支援集落の拡大：183集落（H28年度）→230集落予定）（合意形成率の向上：84%→90%）
- ・鳥獣被害対策専門員の拡充（空白地域の解消による体制の強化：15名→16名）
- ・防護施設整備等の拡充（【拡充】野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金）
（国の交付金を活用のできない農地等への防護柵の設置やサル用大型囲いわなの補助など支援メニューを追加して県単独事業できめ細かな支援を実施）

(2) シカ捕獲目標3万頭達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

◆新規狩猟者の確保と技術向上

- ・新規狩猟者確保事業費交付金
（狩猟免許取得のための講習会受講料や銃所持のための射撃教習受講料の支援）
- ・【新規】わな猟捕獲技術向上事業
（未登録狩猟者の捕獲への参画を目指したくくりわなの製作講習会の実施）
- ・【新規】マイスター捕獲技術指導事業
（わな名人による初心者へのマンツーマン指導で即戦力を育成）
- ・【新規】DVD制作委託料
（名人の捕獲技術をDVDに記録して効率的効果的に県内に普及）

◆捕獲の推進

- ・【新規】シカ捕獲推進事業費補助金
（狩猟者自らが選択した使い勝手の良いくくりわなの購入を支援）

◆シカ肉等の有効活用の推進

- ・ジビエ活用推進事業委託料
（よさこいジビエフェア開催やジビエ研究会活動による有効活用の推進）

守り
防除
（防護柵の設置などによる防除）

【これまでの取り組み】

- ◆平成24年度から鳥獣対策を抜本強化
 - 集落ぐるみで取り組むモデル集落の育成
 - ・総合的な対策で被害をゼロにするモデル集落を育成し成功事例を構築（3年間で31集落を支援）
 - 鳥獣被害対策専門員による支援の強化
 - ・JAIに配置した専門員による農家等への総合窓口としての体制強化
 - 国の交付金等を活用した防護柵の設置

- ◆平成27年度からさらなる強化
 - ①被害集落半減に向けた防除対策の強化
 - ・野生鳥獣に強い高知県づくりによる被害集落への支援（被害の深刻な1,000集落を半減⇒3年間で500集落を支援）
 - ②鳥獣被害対策専門員を拡充し支援体制を強化
 - ・9JA10人⇒11JA15名
 - ③国の交付金に加えて
 - ④県の補助金によるきめ細やかな支援の実施



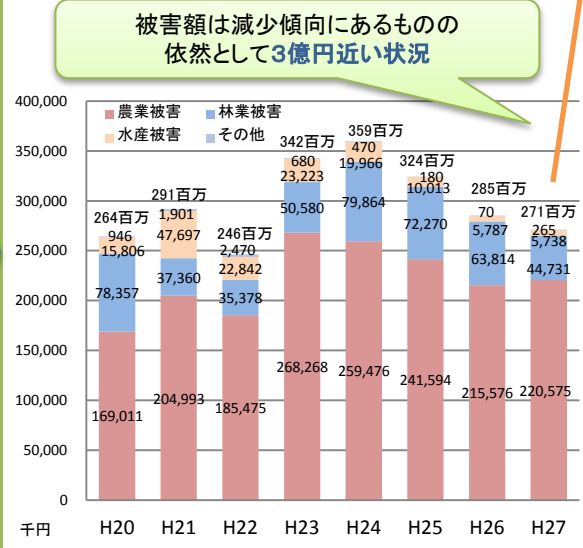
◆シカ捕獲目標3万頭の達成等に向けた捕獲の強化

- ①新規狩猟者の確保・育成
 - 新規狩猟者の確保
 - ・受験機会の拡大
 - ・経費負担の軽減
 - ・狩猟フォーラムによる啓発（目標：新規狩猟者年間500人の確保）
- ②捕獲の推進
 - 地域ぐるみでの捕獲の推進
 - ・くりわなの無償配付（3年間で1,673集落に12,900個配付）
 - 国・県の捕獲報償金による支援
 - ・有害捕獲や狩猟での捕獲の支援
 - 捕獲技術の向上
 - ・わな猟の講習会
 - ・高知県版捕獲マニュアルの無償配付
 - 山岳地など捕獲困難地での捕獲強化
 - ・深刻な森林被害や自然植生被害への対応を強化



【成果と課題】

野生鳥獣による農林水産被害額の推移



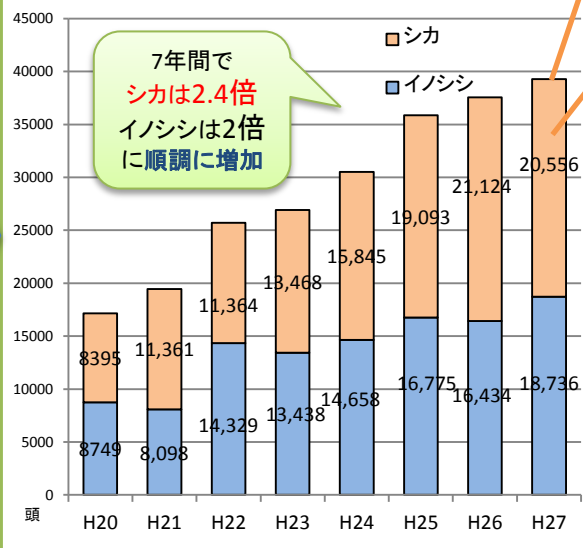
被害額の約8割が農業被害

集落ぐるみでの取り組みが重要

野生鳥獣に強い高知県づくりの推進
H27: 175集落を支援
◎147集落で合意形成(84%)
H28: 183集落を支援

合意形成には時間が必要
支援集落の無い空白地域の解消も課題

シカ・イノシシの捕獲頭数の推移



シカ捕獲頭数の伸びが鈍化

シカの捕獲目標頭数3万頭に対して約7割

狩猟者の減少や高齢化
わな猟の技術向上による捕獲頭数の底上げも課題

【目標達成に向けたさらなる強化】

- ◆被害集落半減に向けた防除対策の強化
(被害集落半減目標(3年間で500集落の支援)の達成に向けた支援の加速化と支援集落の拡大)
- ①野生鳥獣に強い県づくり事業委託料 (9,033千円)
 - ・支援集落の拡大と合意形成率の向上
支援集落: 183集落→230集落 合意形成率: 84%→90%
- ②鳥獣被害対策専門員配置事業委託料 (45,808千円)
 - ・支援集落の拡大と空白地域の解消のための体制づくり
11JA, 15名 → 12JA, 16名
- ③鳥獣被害防止総合対策交付金 (435,996千円)(国費)
 - ・集落ぐるみで設置する防護柵の支援で集落の合意形成を推進
- ④野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金 (37,150千円)
 - ・国交付金の要件を満たさない防護柵の設置へのきめ細かな支援
・支援集落等へのサル捕獲用大型囲いなどの補助や銃猟の担い手確保等のためのメニューを追加



集落ぐるみの防護柵設置を支援(合意形成を促進)

支援集落の拡大

合意形成の加速化

◆シカ捕獲目標3万頭の達成等に向けた抜本的な捕獲強化 (新規狩猟者の確保と技術向上による捕獲頭数の上積み)

- ①新規狩猟者の確保・育成
 - 新規狩猟者確保事業費交付金 (5,850千円)
 - ・狩猟免許講習会受講料や射撃教習受講料の定額支援
 - わな猟捕獲技術向上事業 (2,682千円)
 - ・未登録狩猟者の参画を目指したくりわなの製作講習会
 - マイスター捕獲技術指導事業 (1,507千円)
 - ・マイスターによる初心者へのマンツーマン指導の実施
 - DVD制作委託料 (999千円)
 - ・名人の捕獲技術をDVDにして効率的効果的に県内へ普及
- ②捕獲の推進
 - シカ捕獲推進事業費補助金 (16,000千円)
 - ・地域や技術に応じた使い勝手の良いくりわなの購入を支援
- ③シカ肉等の有効活用の推進
 - ジビエ活用推進事業委託料 (4,000千円)
 - ・地域資源としての有効活用と消費拡大(ジビエフェアなど)



シカ捕獲の新たな担い手確保

未登録狩猟者の参画を促進



わな捕獲の技術力アップ